

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

第六回本会議

令和7年10月15日（水）

（議事次第）

議題

- ・学際サイエンス・デザイン専門学群特別委員会設立について

タイムテーブル

当日の時刻	予定した日程
18:40	開会
18:40~18:51	議題説明
18:51~19:06	質疑応答
19:06~19:15	表決
19:15~19:33	その他諸連絡
19:33	散会

出席者

学類等代表者 46 名 うち遅刻者 1 詳細省略

資料一覧

- ・議案書「学際サイエンス・デザイン専門学群特別委員会設立について」

…… P25009-01

以下、議事録

○吉川 柊（議長）

これから第六回本会議を開催する。本日の資料は現在、全大会の Teams にアップロードされている物である。資料の番号は P25009-01 を見ていただきたい。それでは、吉田さんと KHALID さんから説明をお願いします。

○KU MOHAMAD KHALID BIN MAZLAN（学際サイエンス・デザイン専門学群）

Hello, my name is KHALID . I'm from UTM My I'm a second-year student. I'm from the Interdisciplinary Science and Design School of UTM My. Today's agenda is proposed by me and Yoshida, which is the proposal for the establishment of the Special Committee for Interdisciplinary Science and Design

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

同じく学際サイエンス・デザイン専門学群の2年、吉田龍生だ。本日はどうぞよろしくお願いする。KHALID が英語で説明した後、自分が日本語で説明していきたいと思う。

○KU MOHAMAD KHALID BIN MAZLAN（学際サイエンス・デザイン専門学群）

The purpose and background: The Interdisciplinary Science and Design program is a newly established school, now entering its second year. Only a small number of students have had experience participating in activities on the Tsukuba campus, and consequently at this stage we have not yet developed a sufficient understanding of other programs, the organizational structure of the main campus, or the activities of its student organizations.

Initially we had envisioned holding an official seat in the All Colleges Students' Representative Council as an equal member alongside other colleges. However, after attending meetings of the President's Round Table as observers, we realized that we do not yet have a full grasp of the situation of the main campus in Tsukuba. Given this, we concluded that casting a vote at this stage would be premature and we cannot responsibly fulfill such a role. Therefore, we propose the establishment of a special committee as a preliminary framework through which we can gradually build relationships across the university and deepen our understanding and collaboration as a school.

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

では、背景と目的について日本語で説明する。学際サイエンス・デザイン専門学群は設立1年を過ぎた新しい学群で、筑波キャンパスに行ったことがない生徒が大部分を占めており、筑波キャンパスでの活動経験を持つ学生はまだごくわずかとなっている。そのため現時点で他学群や筑波キャンパスの運営体制、学生組織の活動状況などを、十分に理解できていないのが実情である。当初は全大会において議席を持ち、他学群と同様に一学群として参加することを想定していた。しかし、実際にオブザーバーと

して参加した学長懇談会や全大会の議会資料から、筑波キャンパスの現状を十分に把握しきれていない状況で、貴重な一票を投じることには責任を持ってないと判断した。そこでまずは特別委員会という形で段階を踏みながら、全学との関係を構築し、学群としての理解と連携を深めていくことを目的とする。

○**KU MOHAMAD KHALID BIN MAZLAN** (学際サイエンス・デザイン専門学群)

The objective: To explore future methods of collaboration between the All Colleges Students' Representative Council (Zendaikai) and the Interdisciplinary Science and Design program, and to contribute to the resolution of ongoing issues within the university, whether in the Tsukuba campus or the Malaysian campus here in Kuala Lumpur.

○**吉田 龍生**(学際サイエンス・デザイン専門学群)

活動目的について、全大会と学際サイエンス・デザイン専門学群との将来的な連携方法を検討し、全学に渡る課題解決に寄与することを目指していきたいと思っている。

○**KU MOHAMAD KHALID BIN MAZLAN** (学際サイエンス・デザイン専門学群)

The activities include regular information sharing with the ACSRC (Zendaikai). We value our current relationship with the ACSRC, which is the main point of connection between campuses. We will continue to hold regular meetings to exchange information. We will establish opportunities for both the Interdisciplinary Science and Design program and the Tsukuba campus to share the issues they face and discuss viable forms of collaboration and support.

We are here to help the Tsukuba campus with ongoing issues, and in return we would also like to receive some form of help from the Tsukuba campus over here in the Kuala Lumpur campus. We will participate several times a year in meetings of the ACSRC to share updates on the status and challenges we face at UTM, so that we can engage in discussions and explore connections within the Tsukuba campus. Direct interaction is difficult due to distance, but we aim to explore ways to maintain ongoing engagement through both online discussions and, if possible, in-person exchange events. We aim to develop continuous and practical forms of collaboration with the Tsukuba campus.

○**吉田 龍生**(学際サイエンス・デザイン専門学群)

次に活動内容についてである。まず1つ目は、全大会との定期的な情報共有である。現在、学際サイエンス・デザイン専門学群が筑波キャンパスと関わる主な窓口は、この全大会のみとなっている。そのため、今あるつながりを大切にしながら、定期的なミーティングを通じて情報交換を行っていきたいと考えている。具体的には、学際サイエンス・デザイン専門学群と本キャンパスの双方が抱える課題、今後どのような形での連携や支援を望んでいるかを、互いに共有する場を設けたいと思っている。

2つ目は筑波キャンパスとのつながり方の再構築・模索についてである。昨年度は筑波キャンパスとの直接的な交流の機会が一度のみであった。今年度以降はそのつながりをより継続的に発展させていければと考えている。そのため、オンラインでの討論会や年に数回のオフラインでの交流会を開催し、より実践的な双方向の関係を築いていけたらと思っている。

○KU MOHAMAD KHALID BIN MAZLAN (学際サイエンス・デザイン専門学群)

The activity period: This partnership between ACSRC and the main campus is estimated to take place from October 2025 until November 2026, though this is tentative.

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

活動期間に関してはまだ模索段階のため、2025 年 10 月から 2026 年 11 月までの 1 年間とし、その期間が終わってからその後どうするかというのをまた話し合っていければと思っている。

○KU MOHAMAD KHALID BIN MAZLAN (学際サイエンス・デザイン専門学群)

The expected outcomes: We want to explore more appropriate ways for the program to engage with university-wide organizations and lay the foundations for formal participation. We want to deepen our understanding of the administration and student organizations of the main campus.

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

期待される成果について説明する。まず 1 つ目は学群として全学との関わり方を模索し、将来的な基盤を築くこと。2 つ目は、学際サイエンス・デザイン専門学群の学生が筑波キャンパスの運営や学生組織に対する理解を深めることである。

○KU MOHAMAD KHALID BIN MAZLAN (学際サイエンス・デザイン専門学群)

For the conclusion: Although we are still a young academic program in a new university, the Interdisciplinary Science and Design program seeks to contribute to the overall development of the University of Tsukuba community. Through the establishment of this special committee, we aim to take the first step towards building relationships with other programs as well as between the main campus and the Malaysian campus, so that we can progress gradually while fostering mutual understanding and collaboration between both countries and both campuses.

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

終わりに、学際サイエンス・デザイン専門学群はまだ若い学群でありながらも、大学全体の発展に貢献していきたいと考えている。そのため、まずは特別委員会という形で少しずつ段階を踏みながら、筑波キャンパスとの連携を深める第一歩を踏み出したいと思っている。

○吉川 柊(議長)

それでは質疑応答に移る。質問がある方は挙手、またオンラインの方はリアクションをしていただくと幸いである。社会学類、綱木さん。

○綱木 映法(社会学類)

この筑波キャンパスの全代会側とマレーシア校の方、それぞれどなたが所属できるのかということに

ついて伺いたい。特別委員会であれば、通常その構成員を募って参加するということになる。この学際サイエンス・デザイン専門学群の特別委員会というものが筑波キャンパスとマレーシア校の接続を目的としているということを踏まえると、それぞれどのような構成員・議員が所属することが想定されているのか、またその公募あるいはその範囲について教えていただけるか。

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

構成員に関して、マレーシア校に関しては、1年生から3人、2年生からはクラス代表をしている自分と KHALID の2人の、5人でこちら側は対応していこうと思っている。そちら側の構成に関してはまだ考えきれていないところがあるので、特別委員会が設立された後に考えていこうと思っている。

○吉川 椋(議長)

今の点について、私・吉川の方から補足させていただく。私の方がマレーシア校について、昨年度の3月頃の海外研修の頃から対応しているが、全代会からの構成員については、現在出席している議長と、国際特別委員会のメンバーから数名出すということを、国際特別委員会の委員長と話をしている。そのため、全代会側からは国際特別委員会のメンバーと、あとは興味のある人がいれば参加するという形になる。

○綱木 映法(社会学類)

今のお話だと、必ず参加されるのは今挙がった方々で、それ以外に興味のある方が筑波キャンパス側の構成員にいれば、申し出ることによって所属ができるという認識でお間違いないか。

○吉川 椋(議長)

その通りである。

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

間違いない。

○吉川 椋(議長)

次の質問をお願いする。教育学類カーニーさん

○カーニー 晴希(教育学類)

先ほどの説明の中で、マレーシア校の専門学群の中でクラス代表がすでに決まっているというような発言があったと思うが、規則上、まだクラス代表はそちらに存在していないと思う。こちら今、現状どういうことか。

○吉田 龍生(学際サイエンス・デザイン専門学群)

その通りである。クラス代表という言い方がちょっと悪かったと思うが、学年で代表者が何人かいて、現状マレーシア校ではスチューデント・ファカルティ・ミーティングと言って、生徒と教員間の情

報共有の場が設けられている。その代表をしているのが、1年生からは3人、2年生からは2人となっており、教員の方々と話し合った結果、全代会もこの5人でやっていければと思っている。

○吉川 柊（議長）

知識情報・図書館学類の関さん、お願いします。

○関 智亮（知識情報・図書館学類）

定期的な情報共有とミーティングについて先ほど伺ったが、具体的にはだいたいどのくらいの頻度で特別委員会を開くことを想定されているか。

○吉田 龍生（学際サイエンス・デザイン専門学群）

今のところ1年目は1ヶ月半から2ヶ月に一度のペースで吉川さんや委員会の方とお話ししていた。そのペースで情報共有がうまくできていたと思うので、これからも1ヶ月半ぐらいに一度のペースでやっていけたらと思っている。

○吉川 柊（議長）

他に質問はあるか。

○吉川 柊（議長）

それでは、14分まで質問がなければ、そのまま投票に移りたいと思う。

○吉川 柊（議長）

国際総合学類の桑原さん、お願いします。

○桑原 侑（国際総合学類）

活動期間について質問させていただく。1年間という期間を設けた理由は何か。

○吉田 龍生（学際サイエンス・デザイン専門学群）

活動期間を1年間とした理由は、まず学際サイエンス・デザイン専門学群としての活動体制を整えたく、それとともに全学との関わり方を段階的に確立していきたいので、その試行期間として位置づけるためである。そのため、この1年間で全代会との定期的な連携体制を確立して、交流の形を具体化できていけたらと思い1年間とした。なので、1年後また継続することとなれば、特別委員会は再び1年間継続したいと思っている。

○吉川 柊（議長）

それでは、これから採決に移りたいと思う。

採決の流れは省略

○吉川 柊(議長)

それでは、開票する。出席者 46 名、賛成 42 票、反対: 2 票、保留 2 票。賛成が過半数を占めたため、議案を承認する。

○吉川 柊(議長)

以上で第六回本会議の議題は終了となる。続いて、委員会報告に移る。

○吉川 柊(議長)

それでは委員会報告を始める。総務委員会の綱木さんから願います。

○綱木 映法(総務委員会)

総務委員会は先週ミーティングを行った。第五回本会議の短報の発行と、今年度の議事録作成の進捗確認作業を行った。未公開の議事録は近日中に公開される見込みである。また、全大会のジャケットに少し汚れやカビがあったということについて、大変ご迷惑をおかけした。今月末に洗濯をするとともに、エアコンと空気清浄機のフィルターも手洗いをしてきれいにする予定となっている。

○原田 晃(総務委員会)

10 月の 25、26 日に全学停電がある。全代会室の電気等もつかなくなるので気をつけてほしい。

○柿沼 陽菜美(学内行事委員会)

昨日ミーティングを行い、委員会の書類管理方法の見直しと、学類新歓に関わる学類新歓援助金申請チェックシートの改定作業等を行った。

○カーニー 晴希(教育環境委員会)

授業評価アンケートについて検討している。

○桑原 侑(生活環境委員会)

主に夏休みから引き続き、教育生活環境調査への回答収集を進めている。福利厚生班では 2B 棟のセキュリティ強化についてリスク安全管理課とミーティングをし、その広報内容について、できるだけ多くの情報を学生に共有できるように粘り強く協議している。宿舎班は宿舎コミュニティを盛り上げる方策の 1 つとして、Discord などの SNS を使って宿舎の居住者がコミュニケーションを取れるようにならないか模索中である。

○坂入 快(調査委員会)

調査委員会は雙峰祭で「夢を語る会」という学術企画で出展予定なので、こちらの準備を進めている。宣伝だが、X と Instagram で「夢を語る会」専用のアカウントを作成したので、皆さんぜひフォローをお願いしたい。

○吉川 栞（広報委員会）

広報委員会は先週 10 月 6 日から秋学期のミーティングを始めており、4 月号の広報誌の作成に向けて今動いている。先日、広報誌 Campus の特集で使用するため、一般チャンネルに全代会構成員からみた全代会の印象や活動内容についてのアンケートを流している。そちらはどんなことでもいいので書いてくれると嬉しい。また、SNS の方も、X・Instagram の運用について進めているが、依頼の方法が、チャンネルで直接依頼をするという以前の形ではなく、フォームを利用してもらうという形になっているので、もし全代会の X や Instagram のアカウントで何か広報してほしいものがある人は、フォームを利用してもらいたい。そちらも一般チャンネルにある。

○趙 溢鈞（国際特別委員会）

夏季休業中は毎週ミーティングを行った。CiC との交流会も大成功だった。また、卒業生の組織 TUAN で国際の紹介をした。

国際の 1 年生募集が終わった。これからは暫くのんびりしていて、一部のイベントがある。あとは 1 年生があまりいないので、興味のある 1 年生はぜひ委員会に来てほしいと思う。

○原田 晃（情報処理推進特別委員会）

夏休み中にとう道見学会という、地下にあるネットワークの道を見学させてもらうイベントを行った。新情 Web、新歓 Web の開発がそろそろ始まるので頑張りたい。

○松本 明香里（新入生歓迎特別委員会）

私の方から新入生歓迎特別委員会の委員の募集と委員会の説明をこの場でさせていただきたいと思う。

なぜこの時期に委員の募集があるのかというと、この新入生歓迎特別委員会、通称「新特」は秋学期から活動を開始するためである。

どうしてこの委員会があるのかというと、新歓に関する情報共有の手伝いや、学類新歓の支援を行うためである。また、学内における新入生歓迎時期特有の複雑な連携関連については、こちらの委員会で行っている。

もっと具体的に何をしているのかというと、主に学類の新歓活動、多分 1 年生の方だとカラフルな法被を着た人が入学式や宿舍入居の時に来たと思うが、そういった学類の新歓組織・新歓活動に関する情報提供、情報共有、要望の受付などや、全代会から学生組織への新歓行事などに関する連絡・依頼等の受付、宿舍入居時の新歓活動の支援といったことをしている。

実際にこの委員会に入ったらどんな感じで動くのかというと、主に 2 つの役割に分かれてもらう。1 つは「五者面談担当」、もう 1 つは「宿舍入居担当」である。

五者面談とは何かというと、学類新歓に関係する 5 つの組織（学類新歓、全代会の新入生歓迎特別委員会、全代会新歓、学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員会）のミーティングになる、

なぜこんなミーティングが必要かというと、1 年生は自分たちの入学した時期を思い出してもらったらわかると思うが、オリエンテーションの時期は学類によってまちまちである。それぞれのオリエンテ

ーションで学生組織のメンバー等を選出したいが、それがバラバラになっているので、取りまとめ役が必要だ。そういった学類新歓と学生組織の橋渡し役をしているのが五者面談である。

具体的な活動スケジュールとしては、11月・12月あたりに準備・学類新歓への事前説明会(通称「新歓ネット」)を行ったり、2月から五者面談を行い、3月・4月あたりには学類のオリエンテーションのサポートなどを行っていったりする。

続いて宿舍入居についてである。宿舍入居といっても、私たちがするのは学類新歓の宿舍入居支援の支援になる。まず、新入生の宿舍入居を各学類が支援する活動として宿舍入居支援というものがある。宿舍に住んでいる人は、もしかしたら入居時に、白いジャケットを着た人や学類の法被を着た学類新歓の方にお手伝いしてもらったかと思うが、家具や家電の搬入、履修相談や学類についての相談受付を行う行事だ。

全代会では各学類の宿舍入居支援を実現するための活動、つまり支援の支援を行っている。当日はキャンパスガードとして、不審者から新入生を守る見回りも行っている。なぜキャンパスガードが必要かというと、新歓時期はやはり宗教勧誘や、サークルのしつこい勧誘などもあり、そういったものから新入生を守る役割として、全代会が活動しているということになる。

宿舍入居担当の役割は、各学類への連絡や備品の借用などがある。

新入生歓迎特別委員会では、1年生の参加を受け付けている。基本的には1年生が主体となって活動する委員会である。おそらく、今所属している委員会だけだと、その委員会だけのコミュニティになってしまって、他の委員会の1年生とかってどうなのかなって思っているかもしれない。しかし、毎年この新特に入ってもらって、そこで新しく他の委員会の人とのつながりができるので、そういうことに興味がある人も、是非この新入生歓迎特別委員会に応募してほしい。新特からは以上だ。今、Teamsの本会議チャンネルに募集フォームを流したので、ぜひご参加ください。以上である。

○吉川 柊(議長)

私の方から議長として、次回の本会議についてお知らせする。第七回本会議を12月10日の18時30分から行うので、皆様予定の確保をよろしくお願いいたします。次回の本会議はテスト前になってしまっし訳ない。

散会

以上、総務委員会 作成